

子どもの貧困は「ひどい」「じゃない」。そんな思いを伝え、つながりの輪を広げたいとの願いをこめた『なごや子ども貧困白書』（風媒社）ができました。（堤由紀子）

### 名古屋「子ども&まちネット」が白書

「がんばればできるはず。怠けているから貧乏なんだ」。いまだにこうした「自己責任論」が幅をきかせている。そこを少しでも変えられれば「白書」にける思いを話すのは、NPO法人「子ども&まちネット」理事長の伊藤一美さんです。

情も根拠も  
大事だから

「子ども&まちネット」は「子どもをまじりこめて育つ」をめざし、ネットワークづくりを注いできました。おとなに対しては研修やフォーラムを実施し、子どもや若者に向けては社会参画や遊び、自立に向けた多彩な事業をすすめます。

## 子どもの貧困 ひとつとじゃない



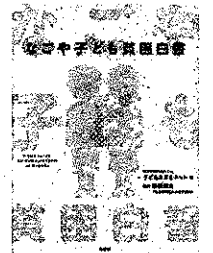
子ども&まちネットの（左から）伊藤さん、奥田さん、鬼頭さん

「人並み以上にがんばって来た人ほど、苦しむ人への目線がきつかったりしてつらい」と伊藤さん。「私たちは子どもの

つらさを情で訴えてきました。それはとても大事ですが、本にして貧困を裏付ける根拠を示したいねと話し合いました」

貧困に加え  
孤立すると

広く手に取ってもらえるよう、平易な言葉でつづり、それを裏付けるデ



『なごや子ども貧困白書』（風媒社・税別1500円）

## 信用できる おとなとつなぐ

「夕を添付しました。鬼頭は「性教育」。若くして子どもを産むことから困難をかかえるという貧困の「根っこ」の部分も少し減らせた、との思いからでした。

白書には保育園、児童館、学童保育、学校、ファミリーホームなど子どもに直接かかわる施設のとりにくみが書かれていきます。また、若者による夜間パトロール、自治会による「コミュニティづくり」、不登校の親の会などさまざまな形の支援を紹介しています。

子どもの声  
聴き出して

理事である奥田睦子さんは「子どもも親も楽しく元気にやっていたらいいけれど、孤立してしまうとすごく困るんです」と、周囲との関係づくりが「貧困」なゆえの深刻さを強調します。

伊藤さんも保健師を訪ねた時、「ティーンエージャーの母たちの広場を開設したのに、参加者が少ない」という話を聞きました。「警察官とか教師とか公的な立場の人に叱られてばかりで、足が向かないんじゃないかなって。信用できるおとなが一人でもいれば、それにはどうしたらいいんだろう」と話になりました。

日本の保育の現状を見るにつけ「うまく言葉にならない小さな子どもの声を聴き取ることも、貧困対策の柱だと思う」と奥田さん。「子どもにかかわる社会的活動をする人たちが、白書を通じてちょっと違う分野にもふれてつながればいいですね」